

研究主題

「自他のよさを認め合い、深く考え、行動できる児童の育成」
—様々な人との関わりを通して—



学び合い



支え合い



関わり合い

あいさつ

練馬区教育委員会 教育長
三浦 康 彰

学習指導要領では、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育むことが求められています。

そうした中、立野小学校では、研究主題を「自他のよさを認め合い、深く考え、行動できる児童の育成」とし、児童が様々な人と関わりながら課題解決ができるよう、地域人材を活用した各教科の授業および特別活動等の研究に取り組みました。

その結果、学習で見いだした課題の探究に向けて、主体的に行動する姿が見られたことは、本研究の大きな成果と捉えています。今後、成果を基に、区内各校において地域と連携・協働して取り組む教育活動の充実が図られることを期待します。

結びに、研究を推進してこられました幅 健司校長をはじめとする教職員の皆様に敬意を表し、あいさつといたします。

はじめに

練馬区立立野小学校 校長
幅 健 司

コロナ禍により新たな日常を強いられる中でも、惜しみなくたくさんのお力添えをいただきながら、令和4年度の開校60周年記念行事を充実した取組にすることができました。本校は地域の皆様の温かさ、各ご家庭の熱心な協力、本校の伝統ある特別活動、これらの強みを維持・発展させるために、本研究に踏み切りました。これにより、「人との交流・対話が、子供たちの学びと成長をより豊かなものにする」との自明の理を改めて実感することができました。「学校は地域と共に、子供のためにある」との経営方針の具現化が、学校、家庭、地域の力を融合し、希望の未来の実現を可能にしていくものと考えております。本校の研究が今後の地域連携に役立つことができましたら幸いです。

本研究に際し、ご指導賜りました講師の諸先生方、また、本研究の機会を与えてくださいました練馬区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

令和7年1月24日
練馬区立立野小学校



令和6年度 研究構想図

【これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿】
(中教審より)

- 地域と共にある学校への転換
- 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
- 学校を核とした地域づくりの推進

【練馬区教育振興計画】

- 夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成
- 教育の質の向上
- 家庭や地域と連携した教育の推進
- 支援が必要な子どもたちへの取組の充実

【児童や家庭・地域の実態】

- ・素直で、学習に対する興味関心が高い児童が多い。
- ・令和4年度の校内研究における学級会の取組により、話し合いの中で合意形成を図ろうとする態度が育ちつつある。
- ・家庭は協力的であり、地域も学校や子供たちのために力を尽くしてくださる温かさがある。
- ・自分で考えて行動することや、学んだことを生かして深めていこうとする意識が弱い。
- ・コロナ以後、集団の中での他者との関わりが減っている。

【学校教育目標】

- あたたかい心をもつ
- すすんで学ぶ
- つよい体をつくる

【教師の願い】

- ・互いのよさを認め合い、温かな関係を築いてほしい。
- ・自ら課題を見だし、周囲と関わりながら課題解決に向けて深く考える児童になってほしい。
- ・学んだことを生かして、主体的に行動してほしい。

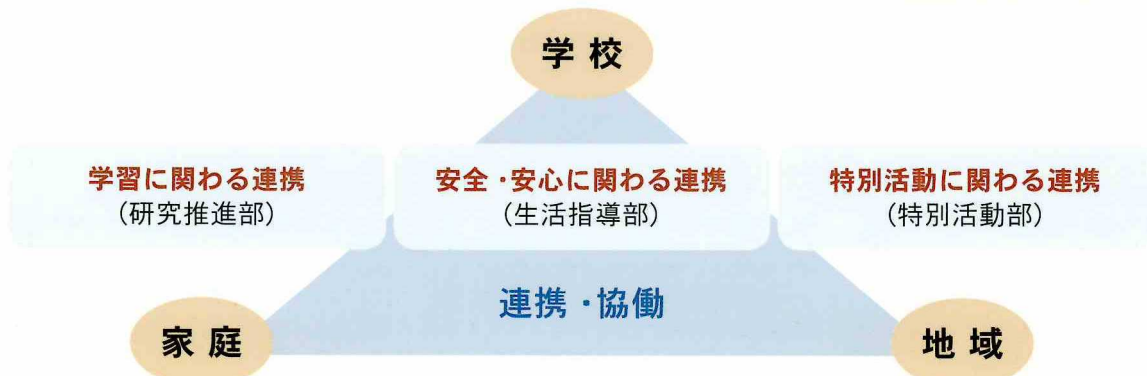


【研究主題】

「自他のよさを認め合い、深く考え、行動できる児童の育成」
— 様々な人との関わりを通して —

目指す児童の姿 ～4つの非認知能力の育みへ～

- ・自分や友達のよさに気づき、認め合える児童
⇒(自尊感情・共感性)
- ・様々な人と関わりながら、課題解決に向けて深く考え、主体的に行動できる児童
⇒(批判的思考力・情熱と粘り強さ)



【研究仮説】

「学習」「安全・安心」「特別活動」の3つの柱を中心にして、学校、家庭、地域がそれぞれに関わり合いながら、教育の目的にせまる手だてを重ねていくことで、互いを認め合う温かい人間関係が生まれ、物事をよく考えて、主体的に行動できる児童が育つであろう。

研究主題にせまる7つのポイント

①学習形態の工夫

学習課題に対して、より多面的に思考を深められるように、児童同士で「学び合う場」を大切にしています。ペアや少人数、グループなど、児童の実態や学習課題に応じて、学習形態の工夫をしています。



7つのポイントが、目指す児童の姿に基づく4つの非認知能力の育みへ

- ① 自尊感情
- ② 共感性
- ③ 批判的思考力
- ④ 情熱と粘り強さ (GRIT)

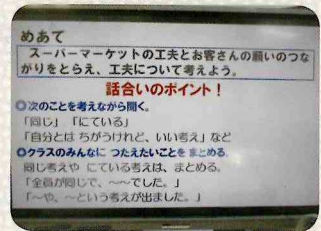
②お互いのよさを伝え合う機会の充実 (個人の振り返りの共有)

学習を通して、何に気づき、何を学んだのか、自分や友達の学びを互いに認め合い、価値付けるために、振り返りの時間を大切にしています。



⑤課題意識の明確化

学習課題に向き合い、思考をじっくりと深められるように、学習課題のポイントをわかりやすく提示し、全員で共有できるようにしています。



③相手意識の明確化

様々な話し合い活動の経験を通して、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝える方法について学びます。そのためのポイントとして、事前に相手についてよく知ることや、相手に応じた内容を伝えることを大切にしています。



⑥体験活動の充実

体験的な活動を通して、児童は様々な人と関わり、気付いたことを基に考えたり、興味関心を高めたりします。実践的な理解や気づき、発見を引き出すため、学習のねらいと児童の実態に即した体験活動を大切にしています。



④「話す・聞く」の強化

話し合いを深めるために、特に相手の話を聞いた上で、自分の話の内容を考えられるように、「聞く」ことの大切さを学びます。話型の活用やトークタイムの設定などを日常的に取り入れています。



⑦「地域人材活用シート」の作成

学習のねらいに即して、地域素材をより効果的に生かすために、準備すべきことや事前・事後学習、地域人材の方と教師が相互に確認しておくべきことなどを押さえておきます。また、計画書を書き残すことで、翌年以降の授業の持続と発展がスムーズになります。



学び合い 支え合い 関わり合い

カリキュラム・マネジメント

研究推進部

学習に関わる

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1年生	【生活】下校見守り (民生・児童委員) 【図工】消防写生会 (消防署関町出張所)					
2年生	【図工】消防写生会 (消防署関町出張所)	【生活】 野菜を育てよう (近隣協力者)	育てる	収穫		【生活】図書館見学 (関町図書館) お礼を伝えよう (近隣協力者)
3年生		【社会】 商店の仕事 (コープみらい)				【総合】 「CMをつくってちいきの よさをしようかいしよう」 (近隣施設・商店) 【社会】 火事を防ぐ (消防署関町出張所)
4年生		【社会】 (水道キャラバン)				【総合】「共に生きる」 ・視覚障害・聴覚障害 (関町ボランティアセンター) (特別養護老人ホーム) 【社会】ふれあい環境学習 (石神井清掃事務所) 【算数】そろばん (地域そろばん教室)
5年生		【総合】米博士 (パレンシステム)	【国語】 「きいて、きいて、 きいてみよう」 (6年児童)			【総合】 「地域とわたしたち」 ～われら地域もりあげ隊！～ (学校応援団等)
6年生			【国語】 「聞いて考えを深めよう」 (5年児童)	【理科】 体のはたらき イムス東京葛飾総合病院 心臓外科医 山岸俊介先生		
行事・地域活動		こども縁日 (立野地区区民館運営委員会)	ポッチャ大会 (学校応援団) じゃがいもほり (関地区委員会) 防災訓練 (立野町会・区防災課)	夏まつり 	夏まつり (立野地区区民館運営委員会) 夏休み学習教室 (学校応援団)	PTAイベント (PTA)

令和5年度 研究授業4本 <「研究主題にせまる7つのポイント」を整理し見いだす>

第6学年 理科
「体のつくりとはたらき」

医師より心臓や命の話を直接聴き、自分が学びで得たものを友達と互いに共有しながら、命の尊さについて改めて深く考えることができました。



第2学年 生活科
「えがおのひみつたんけんたい」

町たんけんて自分たちが調べたことを1年生に紹介。自分たちの町をもっと好きになることができました。



第4学年 総合的な学習の時間
「共に生きる」

～人とつながる・思いやりのかたち～
社会福祉協議会や老人ホームの方との連携を通して、すべての人にやさしい街づくりを考えることができました。



第5学年 総合的
「われら！立野安

地域安全マップで、自分や友達のながら、相手に応を工夫して伝える








ながら伸びる立野っ子

連携【学び合い】

学習に関わる連携の全体を俯瞰することで、学習のねらいや内容の関連を明確にし、地域の資源を生かします。

令和5年度(青)・6年度(黒)実施()内は、連携・交流の相手

10月	11月	12月	1月	2月	3月
			【生活】昔遊び (地域の方々)	【生活】幼児との交流 (近隣幼稚園・保育所)	
【生活】えがおのひみつたんけんたい (学校近隣の施設・商店・保護者)	【生活】あしたへつなぐ (株式会社旭プロダクション)				
					
【社会】農家の仕事 (井口農園)	【総合】しょうゆ博士 (醤油協会)		【社会】昔の暮らし (学校支援コーディネーター)		【算数】そろばん (地域そろばん教室)
地域調査 (保護者)				【道徳】「命の授業」 〔東京学芸大学 鈴木琴子先生〕	
【総合】「練馬区調査隊」 (練馬区内会社・施設等)				【総合】「落語」 (柳亭芝楽様)	
		【総合】われら！立野安全隊！ (保護者)			
				(地域幼稚園園長児)	
	【国語】能楽体験教室 (練馬区文化センター 梅若研能会)	【総合】キャリアプロジェクト (保護者と教員)			
能楽体験教室		【保健】薬物乱用防止教室 (ライオンズクラブ)	キャリアプロジェクト		
あるこう、あそぼう、たんけんしよう (関地区委員会)	運動会 (立野町会) 避難拠点運営 連絡会訓練 (立野町会)	スポーツフェスティバル (関地区委員会) プラネタリウムがやってくる (関地区委員会)	たこあげ大会 (関地区委員会)		

令和6年度 研究授業3本 非認知能力の育成へ

な学習の時間
全隊！」

の製作を通し
よさを見付け
た表現方法
ことができました。

第5学年 国語科

「きいて、きいて、きいてみよう」

学校生活における疑問を解決するために、5年生が6年生にインタビュー。互いに高め合う学びができた。



第3学年 社会科

「まちの人々の仕事(1) 商店の仕事」

お店見学を基に話し合いを行うことで、地域のお店の努力や工夫について、より深く考えることができました。



第2学年 生活科

「めがせ 野さい名人」

地域の方に野菜づくりを教わりながら、自分の健康を支える野菜に向けて感謝の手紙を書いた。自分の思いを深める振り返りができた。



1 防災 学校防災訓練、立野町会防災訓練

立野町会（地域）や練馬区防災課と連携した防災訓練を実施し、災害に備えます。



全学年で学校公開日に防災体験学習を実施し、児童と保護者が一緒に防災体験を行います。



地域の防災訓練には、立野町会、区防災課、消防署出張所、PTA、教職員、児童、保護者も参加し、様々な機関と連携できる強みを生かし災害時に備えています。

- ◇1年 備蓄倉庫見学
- ◇2年 煙ハウス
- ◇3年 通報訓練
- ◇4年 初期消火
- ◇5年 放水体験
- ◇6年 応急救護



親子で体験をすることで、防災に対して興味関心を持ち、災害時について、家庭でも防災意識を高める機会になります。



2 安全 下校支援・指導、居場所づくり、見守り活動

学校支援コーディネーター、学校応援団、関地区委員会、PTAの協力で児童の安全・安心を守ります。

新1年生下校支援



教員や学童擁護、民生・児童委員が連携して下校指導にあたっています。危険なところはないか情報共有もしています。

校外下校指導



毎月の安全指導日に、教員が担当場所に分かれて児童の下校の様子を見守り安全指導にも生かしています。

居場所づくり



週末には校庭や図書館開放、夏休みには学習教室を開いて、児童にとって安全・安心の居場所づくりをしています。

地域の見守り



《安全安心ボランティア》保護者・地域の方に、ボランティアとして校内・校外の安全を見守っていただいています。

《ひまわり110番》学区域の家庭・商店・事業所に協力していただいています。

3 相談 教育相談会議、支援体制、生活指導夕会

SSWr、主任児童委員、子ども家庭支援センター、学校教育支援センターなど様々な機関と連携し支援の体制を整えます。



毎週月曜日、教育相談会議を行い、個別に応じた校内の支援体制を整えています。管理職、SSWr、SC、心のふれあい相談員、学校生活支援員、特別支援教育コーディネーターなどが参加しています。ケースに応じて担任も参加し、外部の関係機関と連携しながら具体的な対応を検討しています。また、生活指導夕会で全体共有しています。

～人間関係形成能力を育む校内交流と校外交流の充実へ～

其の壱 「学級会や学級集会を充実させ、クラスの仲を深めるべし！」

其の弐 「児童会活動を充実させ、全校児童の仲を深めるべし！」

其の参 「地域との交流を充実させ、地域との関わりを大切にするべし！」

其の壱「学級活動の充実」



学級活動（1）「学級会」

みんなの前で、堂々と自分の意見を言ったり、友達のような考えを大切に受け入れたりする活動を積み重ねることで、自分に自信が付いたり、友達を大切にしようと考えたりする力が着実に育ちます。

高学年になると、出てくる意見や話合いの進行も高度になり、建設的な話合いができるようになってきます。



学級集会（実践）

「みんなで決めたことはみんなでやる！」をテーマに計画から本番まで、見通しをもち、協力して準備をします。

主体的に物事を進め、自分たちの力で達成する喜びを感じることが出来ます。

其の弐「児童会活動の充実」

各委員会の活動

全校が関わり合い、楽しみながら活動することを通して、低学年への「思いやり」と高学年への「憧れ」が数多く生まれます。



開校イベント「立野フェスティバル」

立野小学校の開校を祝い、各クラスで工夫を凝らしたお店を出します。

終わった後には、様々な学年からの温かい言葉が各クラスに届きます。



たてわり活動

学期に1度、昼休みにペア学年で遊びを行います。上級生が下級生のことを考えながら遊びの内容を企画することで、当日は笑顔いっぱい遊びます。



其の参「地域交流の充実」

地域行事

「ポッチャ大会」や「こども縁日」、「夏まつり」など、PTAと地域が協力して児童のためにたくさんの催しを企画します。



学校行事での交流

運動会や音楽会では、保護者や地域の方々からの温かい励ましの言葉、感想が寄せられます。子どもたちは嬉しそうにその言葉を眺め、自信を付けていきます。



学び合い

【カリキュラム・マネジメントにより、地域連携と児童の学び力の向上！】

- 地域資源を生かした学習単元を軸にしてカリキュラム・マネジメントを行うことにより、学習のねらいや内容の関連、系統などの視点が定まり、児童の学習意欲が高まる授業改善へとつながった。(授業改善と学習意欲の向上)
- 主題にせまる7つのポイントと非認知能力を関連付け、教師の願いと児童自身が感じる気づきや成長を互いに共有することで、児童は自分自身の学びや成長を感じ、学習価値を見いだそうとする力が高まった。(学習の目的と価値の共有)

支え合い

【互いの努力と協力を理解し合い、発展へ！】

- 防災訓練や児童の見守り活動など、それぞれの取組を関連付ける連携により、学校と家庭、地域、関係機関との相互理解が深まり、安全意識をより高めることができた。(相互理解と安全に関わる協働意識の向上)
- 学校応援団の協力により、週末の校庭開放や図書館開放、夏休みの学習教室など、子どもの居場所づくりが発展した。(子どもの居場所づくりの発展)

関わり合い

【校内の交流は、校外の交流も充実させる！】

- 学級会や異学年交流などを通して、自分の意見を考えるだけでなく、批判的思考力を働かせてより深く考えたり、他の人に共感を示したりするなど、合意形成する力と実践力が高まった。(様々な人との交流や話し合い活動の効果)
- PTA イベント、応援団祭などでPTAと地域が協力して子どもも大人も楽しく交流できる企画が充実し、参加者が増加傾向にある。(PTAと地域の協力による行事の充実)

< 課題 >

- 学校、家庭、地域で教育的価値を共有し、状況や実態に応じた改善を図りながら、持続可能な計画として教育課程に位置付けていく必要がある。
- 学校の教育相談活動と関係機関との連携は充実しているものの、相談件数が増加の一途をたどる中、新たな支援の在り方も追求していく必要がある。
- 核家族化、ひとり親家庭および共働き家庭等の多様な家庭のかたちがあり、また、地域や家庭がそれぞれ多忙化する現状において、PTAや地域活動への参加が難しくなっている。こうした社会の状況において、「できる人が、できることをやる」連携スタイルを今後も追求していく必要がある。

おわりに

副校長 木村 順子

地域連携の研究を進めていく中で、学級内での関わり、異学年の関わり、そして地域との関わりを意欲的に実現していく教員の姿を目の当たりにしました。今回の研究の成果を、今後も児童の豊かな学びと成長に生かしていけるよう、教職員一同、研鑽してまいります。研究を進めるにあたり、地域や保護者の皆様、ご指導・ご助言をいただきました多くの講師の先生方に心よりお礼申し上げます。

ご指導いただいた講師の方々

創価大学教職大学院 教授 田村 修一 先生 文部科学省CSマイスター 四柳千夏子 先生
 玉川大学 教授 小谷恵津子 先生 元東京女子体育大学 准教授 榎本 竜二 先生
 教材開発士 村野 聡 先生

研究に携わった教員 研究主任◎ 研究推進委員○ 生活指導主幹◇ 特別活動主任◆ 教務主幹※

<令和6年度>

校長	幅 健司	副校長	木村 順子
1年	○木村 和代	村越 陽和	※首藤 慶
2年	山崎 薫	○竹内 宏和	山口 杏子
3年	東 誠一郎	土屋 栄子	○和田 幸代
4年	○小川 優香	大木伸一郎	杉田 陽子
5年	○田原久美子	○北上 滋樹	山本 夏実
6年	◆森脇 雄史	渡辺 好弘	◎大野 裕美
専科	石垣 有子	磯部 透	◇進藤 洋子
	城田 沙貴	養 護 松田 博絵	
事務	藤井 誠	栄養士 小林明日香	
校長秘書	佐藤 仁志	事務補助 栗山 順子	

時間 講師	相川 京子	木原ひとみ	小林 美佳	野田 昌子
学校生活支援員	木下真由美	仲田 雅琦	古谷あゆみ	宮川美奈子
スクールサポートスタッフ	田中 造雅	小澤 教子		
A L T	マリルー・イガラシ			
学力向上支援講師	小林 美香			
スクールカウンセラー	丸尾 史子			
特別支援専門員	曾根 操			
心のふれあい相談員	木幡 和枝			
学校図書管理員	石澤 直子			
<令和5年度>				
	二瓶 大河	前里 翔士	小杉 喜彦	